

# ゆらの通信

vol.6

平成19年12月

由良野の森ではすでに何度か雪が舞い、屋根を白く化粧しました。先日やっと薪小屋も完成し、冬への備えも整いつつあります。ニホンミツバチも活動を終わりました。小さな命がこの寒さに耐え、また春に会えることを祈っています。

総会以後、新しくはじめた「ゆらの人間学講座」を含め、たくさんの行事がここ由良野の森で行われてきました。こども森林博士号講座もこの冬で第20回を終えました。色々なご縁で音楽会もできました。以下に総会以降の活動を紹介させていただきます。

## 2007年夏・秋・冬

### こども森林博士号講座

#### 6月10日 第15回「生きものをつかまえてみよう」

小動物が一番多い時期。こども博士たちは虫取り網を振り回し、たくさんの生きものたちを集めてきました。博士たちに人気は飛ぶもの、きれいなもの、かっこいいもの。名前や特徴を講師の山本栄治氏に質問し、ますます森の生きものに興味をもちました。



#### 7月22日 第16回「林の中のかんさつ」

林の中の観察のはずが、博士たちは今回も虫網を持参。観察をしながらしっかり生きものさがしをおこなっていました。小雨の降る中でしたが、講師の山本栄治氏に今回も昆虫、植物についていろいろ教えていただきました。森の中は一年中留まることなく変化し続けます。



8月5日 第17回 「川の中の生きものかんさつ」

由良野川から2キロほど下りたら二名川に出合います。

昨年同様、その少し下流で観察を行いました。

大きな魚は少ないですが、稚魚や水棲昆虫・サワガニ・カジカガエルなどで水槽はすぐにいっぱいになりました。川魚が戻り、子供たちが山に川に戻ってくる未来を描きたいと感じた夏の一日でした。



9月9日 第18回 「木を切り倒してみよう(除伐)2」

由良野にあるヒノキ林の「除伐」をおこないました。初めて木を切り倒した博士も、経験のある博士も林の手入れを楽しみました。ヒノキ林(畑)では、木をまっすぐな良質の材料に育てるのが目的です。よい野菜を育てるように、成長の思わしくない木を間引き、その木は焚き物(薪)などに有効利用します。博士たちは木を切る目的・方法・利用を楽しく学んでいきます。



10月7日 第19回 「秋をさがす2」

秋。実りの秋。虫網も持ってはいるもののその中にはアケビやムカゴなども。(左の写真は博士たちがアケビを手にしているところ) 栗やどんぐりを手に、すっぱい顔をしてガマズミの実をかじっている博士たちもいました。たくさんの秋を持ち帰り皆で発表しました。講師の山本栄治氏は、普通に見ていると見逃してしまうような事を教えてくれました。森は木だけでなく、花や草や昆虫達や鳥など、みんなが繋がっていることを気付かせてくれます。



## 11月4日 第20回 「エビネ苗を植える」

今年3月4日の第12回で博士たちが作ったエビネの苗を、スギ林の中に植えました。由良野の森では、昨年6月にも別の林に苗を植えており、こども博士による希少植物の増殖が進んでいます。植える場所は人や動物の通り難い木の株元。この林でも二年後にはエビネの花が楽しめるそうです。



## ゆらの人間学講座

今年の総会で発案された「ゆらの人間学講座」を7月、9月と2回開催しました。講義のレジメを希望の方は、連絡いただければ郵送いたします。ゆらの事務局までご連絡下さい。

### 7月22日 第1回ゆらの人間学講座 「身体のエネギー学」

第1回目は、光明内科胃腸科クリニック院長 清水秀明先生による「身体のエネギー学」。人と自然の関係、心の問題は密接に関係しています。そこで人と自然の共生を考え「心」と「体」を持つ我々人間の様々な行為にスポットをあて、伝統医学から見た「身体のエネギー学」についてお話しいただきました。



### 9月9日 第2回ゆらの人間学講座 「万葉の植物を詠んだ歌の解説」

第2回目は愛媛生涯教育推進講師（古典文学）の池田三男先生を講師にお迎えして、里山の野草、野の花を詠った万葉集の数々を実物の草花に囲まれて学ぶことができました。



## 由良野の森 音楽会

10月、11月、12月と毎月1回ずつ、音楽会が開かれました。毎回違ったジャンルの音楽を聴くことができ、どれも趣のある会となりました。

### 10月14日 ロス・コンドルス ライブコンサート

民族音楽を中心に演奏活動を行っている、松山のユニット ロス・コンドルス。この日はあいにく小雨もありましたが、地元の方々を含め多くのご参加がありました。笛やギター、太鼓などを使い、南米のフォルクローレから沖縄民謡、コキリコ節、ソーラン節、三坂馬子唄など子供たちから年配の方まで楽しんでいただけました。



### 11月17日 アンサンブルさくら 「大人のための キャンドルナイトコンサート」

秋も深まったこの日、由良野の森での演奏は3回目になる、アンサンブルさくら。今までは子どもまで楽しめる演奏会でしたが、今回は大人のための夜のコンサート。しかもキャンドルナイト。由良野の夜の山道をたくさんの方にお越しいただき、生演奏の迫力を感じる素敵なコンサートを楽しみました。コンサートの後はささやかな茶話会を……。ヨーロッパのクラシックコンサートではよくあることだそうです。 難しい・・・とあきらめがちなクラシックがより身近になった秋の夜でした。



### 12月2日 マーキー・ジョモラ 「オーストラリア先住民の楽器イダキの演奏会」

冬に入り、今年最後の由良野の森音楽会はオーストラリア アボリジニの民族楽器でもあり、そのルーツをアイヌ民族の原始の管楽器ヘニユード（ハマウドの茎で作ったもの）にたどれるという、イダキ（ディジュリドゥー）の演奏会でした。演奏していただいたのはマーキー・ジョモラさんと、旅の途中で知り合い一緒に来てくれたトモさん。見たことのない長い楽器とその演奏に聞き入ること1時間半。ゲストハウスには冬の早い夕日も入り、マーキーさんの後ろのススキやウバユリがオレンジの乾いた色に染まると、そこはまるでオーストラリアの平原のよう。熱気と共にユーカリの香りも強くなりました。曲はツルや犬など自然を称えるものや、魂を明けの明星に返すときの（葬儀にあたる）もの。「かの昔、日本から舟に乗ってやってきた人たちと共に演奏した」とアボリジニが伝えている曲など多様でした。循環呼吸という方法で吹いてくれたマーキーさん。曲にまつわるたくさんの逸話をまじえて、参加した皆さんも聞き入っていました。



### 野菜市

音楽会当日、地元農家の方々に協力して頂いて、ささやかな自家用野菜の直売市を同時開催しました。新鮮、直売価格の元気な野菜・豆・手作りリースなどや漬物など。みなさんに喜んで頂きました。



### 会員交流の集い企画

#### 8月5日 「手打ちうどん体験」

今年で2回目になりました。松山の「うどん坊」中塚さんご夫妻による手打ちうどんの体験。うどんを伸ばし、上手に同じ太さに切り、野外の大釜で湯がき、即おいしく頂ける。大満足の楽しい企画が実現しました。



## 12月3日 親睦餅つき

朝晩ずいぶん冷え込みがきびしくなった由良野。あったかそうな湯気を上げて、今年も餅つきができました。準備した20キロのもち米は、参加していただいた皆さんの協力で、それはそれは美味しい杵つき餅になりました。つく人・「手」をする人・蒸す人・丸める人・食べる人。焚き火をかこんで笑い声いっぱい。師走の空気を一足早く感じました。忙しい季節で参加できない方も多いことと思います。次の機会には皆さんにもお会いできますように・・・。



## 共生林の活動

里山の大切さがあちこちで語られています。由良野の森共生林では、人と自然とのかかわりを生物学的に解明し、そのあり方を提言する愛媛県内初のプロジェクト「雑木林の生態調査」が始まりました。この夏より、マレーズトラップの設置やスニーピングによる昆虫類の採集調査が行われており、生態系の底辺を担う微小昆虫の役割解明をおこなっています。

また、雑木山での落ち葉調査や、去年より行われている渡り鳥の鳥類標識調査なども進んでいます。渡り鳥調査では、福井県で放鳥されたアオジが再捕獲された他、昨年ここで放鳥されたノゴマやミヤマホオジロなどが10羽再捕獲されています。県内初確認のシロハラホオジロも確認されており、共生林担当 山本栄治氏の地道な活動は、着実に成果をあげています。事務局もよく共生林に行きますが、森は山本氏に案内されると、マジックフォレスト（見えてなかった多様性が見えてくる森）に変わります。



マレーズトラップ



県内初確認シロハラホオジロ



再捕獲ミヤマホオジロ



エナガ



ミソサザイ



ヤブサメ

(調査の成果については、その一部が12月16日付の愛媛新聞にも記事が掲載されました。)

標識を付けているところ



愛媛大学学生の研修

## 由良野の森建築プロジェクト

### その1 研究小屋

総会で予告していました、共生林の研究小屋が完成し、この秋からフル活用されています。今のところ、「栄治さんの基地」と由良野の子どもたちに呼ばれているこの小屋は、森のシイタケほだ場近くにあり、共生林での活動の際に多に利用されています。今後も多くの研究観察プログラムに利用されることが期待されます。



棟上



山本氏小屋にて作業中



(ほぼ)完成

### その2 ニワトリ小屋

この春、丁度北海道屈斜路湖から来ていた友人にも少し手伝ってもらい、ニワトリ小屋が完成しました。由良野で生まれたニワトリは今年16羽。10月11日今年最後に孵ったヒヨコ3羽の内、1羽はハイタカ?に目の前で見事に獲っていかれました。

ここのニワトリ(20羽)は朝一番に小屋から出て、1日中遊びまわり、夕方は自分でさっさと小屋に入り眠ります。由良野の住民と彼らは、朝夕少しの食料を提供するかわりに、卵を頂くという相互依存の関係。「ニワトリにはもったいない」といわれているこの鳥小屋ですが、日々平安に幸せに共に生きたい仲間の住みかです。



地面から襲われないように高床になっています



ニワトリ親子と一緒に畑を耕してくれます

### その3 薪小屋

ゲストハウスと管理人宅2軒分の冬をまかなう大切な薪。共生林の雑木や杉・ヒノキの除伐木を山から出し、薪割りして積んでいたのが、この冬本番直前によく薪小屋へ運びこまれました。

寒さの程度にもよりますが、積み上げられた薪を見るとホッと安心します。ストーブの炎がゆれるのを見ながら外の冬景色を見る・・・というのはちょっと贅沢な時間ですが、これもこの1年どれだけ薪を準備できたかによるわけで、まさに「アリとキリギリス」を実感です。これを書いている12月15日夜、外は雪が舞っています。ぐんぐん冷えてきました。



## 事務局より

皆様、今年1年ありがとうございました。

「ゆらの」は、ここ由良野の森で「人と自然の共生の場」として「人と自然の相互関係、相互依存の本来の姿を求めて」里山づくりに取り組んでいます。現在会員数は81名。趣旨を理解し、賛同協力していただける方が、こんなにたくさんいらっしゃることは、事務局にとっても大変心強いことです。会員のみならず、由良野の森を自分の故郷のように想っていただければ幸いです。ぜひ足をお運び下さい。皆さんと植林した木々と共に、里山や活動も成長しています。季節の山の恵・鳥の声・美味しい水・爽やかな風・ニワトリと共にお待ちしています。

第20回を迎えた「こども森林博士号講座」は、大人の会員の方にも参加をおすすめします。山本栄治氏のガイドにより、知っているようで知らないことがたくさんあることに気づきますし、自然（人が創ったものでないもの・こと）にとっても興味関心が湧いてきます。人間学講座へも、「こんな話聞きたい」の提案をおまちしています。

管理人がここ由良野に住みはじめてから、1年と9ヶ月になりました。ご縁のある方々に、里山生活の知恵をたくさん分けていただいています。来年は、そういったこともどんどん活かしていきます。今年春から中断していた染織工房の改装もこの冬再開です。本「ゆらの物語？」の出版も予定され準備中です。

今後も里山での作業のお誘いや、共生林でのプロジェクト、各種イベントや、勉強会、交流会の案内を郵送させていただきます。ぜひ一緒に楽しみをつくっていきましょう。

あらゆる問い合わせは、下記事務局まで

〒791-1222  
愛媛県上浮穴郡久万高原町二名乙787-13  
由良野の森 「ゆらの事務局」  
電話・FAX0892-21-8076  
E-Mail yurano@yuranonomori.jp

なお、地域行事・学校行事などで不在のことがあります。お越しの際は事前に連絡をいただければ幸いです。